

だい しょう め み ひと き き ひつようせい  
第2章 目の見えない人のための機器の必要性について

## (1) 誘導用ブロック (点字ブロック)

目の不自由な人は、まわりの危険物に気づくことができずに

自転車や看板などにぶつかりそうになったり、横断歩道や交差点に

来たとき、どこで止まったらよいのかわからなかったりします。ま

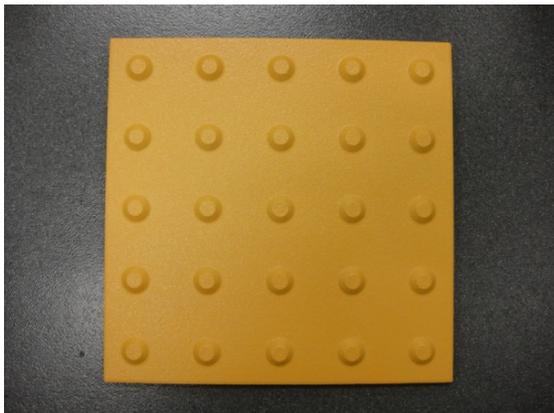
た、駅のホームでの移動の際、目の不自由な人はホームの端に気づ

かずに線路に落ちてしまうことがあり、一歩間違えば命にかかわります。

目の不自由な人が事故にあわずに安心して移動ができるように、

点字ブロックは、どの方向に進んでいるのか、曲がり角や先に注意す

るものがあるかどうか、教えています。



てんじょう  
点状ブロック



せんじょう  
線状ブロック

てんじ しょうわ ねん ねん にほん おかやまし たん  
点字ブロックは、昭和40年（1965年）に日本（岡山市）で誕

じょう てんじ しゅるい てんじょう せんじょう  
生しました。点字ブロックの種類には、点状ブロックと、線状ブ

しゅるい  
ロックの2種類があります。

てんじょう こうさてん だんさ きけん ばしょ でいりぐち てまえ  
点状ブロックは交差点や段差などの危険な場所や出入口の手前

せっち ちゅうい と いみ  
などに設置され、注意や止まれを意味しています。

せんじょう どうろ しんこうほうこう む せっち せん  
線状ブロックは道路の進行方向に向かって設置され、線をたどっ

あんぜん みちすじ しめ  
て安全にすすめる道筋を示しています。

み しゅるい てんじ りょう  
見えにくさにはいろいろな種類があり、点字ブロックを利用する

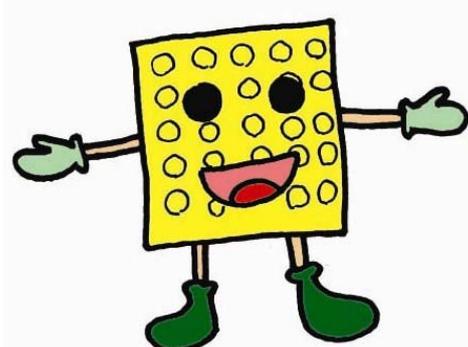
め み はんたん ひと おお てんじ いろ  
ときに目で見て判断している人も多くいます。点字ブロックの色が

どうろ まわ いろ おな つか  
道路や周りの色と同じだと、使いづらいものになってしまいます。

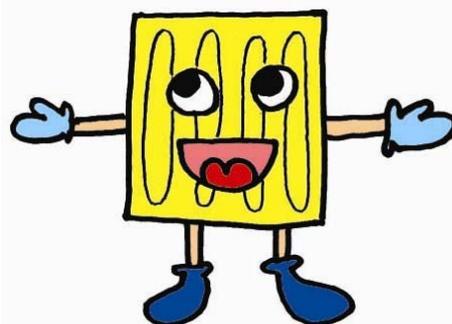
てんじ いろ とく きいろ  
点字ブロックの色がはっきりしているとわかりやすく、特に黄色

いろ み おお しょう  
い色は見やすいので多く使用されています。

てんじ  
点字ブロックは  
きいろ  
黄色だと目だっ  
て見やすいね。



てんじ  
点字ブロックにも種類  
があってそれぞれに  
いみ  
意味があるんだね。



## （2）<sup>てんじあんない</sup>点字案内

<sup>め</sup> <sup>ふじゆう</sup> <sup>ひと</sup> <sup>じぶん</sup> <sup>い</sup> <sup>さき</sup> <sup>いま</sup> <sup>かくにん</sup> <sup>め</sup>  
目の不自由な人は、自分の行き先や今どこにいるのかの確認を目  
ですることができません。

エレベーターに<sup>の</sup>乗ったとき、どのボタンを押せば行きたい階に行  
けるのかわからずに<sup>ちが</sup> <sup>かい</sup> <sup>い</sup>違う階へ行ってしまったり、<sup>でんしゃ</sup> <sup>お</sup>電車から降りたあ  
とどうすればいいのかわからずに、<sup>ちが</sup> <sup>ばしょ</sup> <sup>い</sup>違う場所に行ってしまうたりし  
て、行きたい場所に<sup>い</sup> <sup>ばしょ</sup>たどりつくのに<sup>おお</sup> <sup>じかん</sup>多くの時間がかかってしまいま  
す。

<sup>まわ</sup> <sup>ひと</sup> <sup>き</sup> <sup>まわ</sup> <sup>しつもん</sup> <sup>こた</sup>  
周りの人に聞くにしても、いつでも周りに質問しても答えてくれ  
<sup>ひと</sup> <sup>いどう</sup> <sup>さい</sup> <sup>てだす</sup> <sup>ひつよう</sup>  
る人がいるわけではないため、移動の際には手助けが必要になります。



<sup>かいだんよう</sup> <sup>てんじひょうじ</sup>  
階段用の点字標示



<sup>てんじあんないばん</sup>  
点字案内板

てんじあんない てんじ め ふじゆう ひと じぶん  
点字案内は、点字で目の不自由な人に、自分がどこにいるのか、

もくてきち い おし おも  
どうやって目的地まで行くのかということをおしえてくれます。主に

て へ や いりぐち  
手すりや部屋の入口、エレベーターなどにつけられています。

てんじあんない ふ し かくにん  
点字案内に触れることによって、知りたいときに確認をしながら

じょうほう え め ふじゆう ひと あんしん いどう  
情報を得ることができるので、目の不自由な人が安心して移動を  
することができるようになります。



てんじあんないばん い さき  
点字案内板で行き先  
がわかるんだね



じぶん ばしょ  
自分のいる場所や  
行きたい場所がわ  
かりやすいね。



てんじあんないばん  
点字案内板

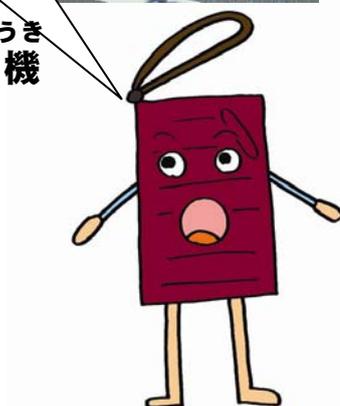
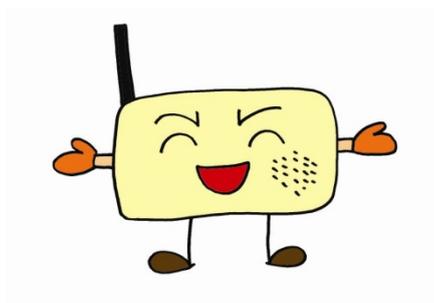


おんせいあんない  
(3) 音声案内

め ふじゆう ひと こうさてん しんごう いま なにいろ はんたん  
目の不自由な人は、交差点で信号が今、何色をしているのかの判断  
むすか じどうしゃ はし おと まわ ひと うご はんたん  
をすることが難しく、自動車の走る音や周りの人の動きで判断して  
くるま はし こうさてん ひと ある  
います。そのため、車があまり走っていない交差点や人が歩いてい  
こうさてん おと き しんごう いろ まちが わた  
ない交差点では音が聞こえず、信号の色を間違えて渡ってしまうこ  
ばあい てだす おうだんほどろ しんごう いろ  
ともあります。そのような場合の手助けとして、横断歩道の信号の色  
か おと おんせい しんごう あお か  
が変わったときに音（ピヨピヨ、カッコー）や音声（信号が青に変わ  
とう あんない き き  
りました等）で案内をする機器があります。



おんきょうしんごうき  
音響信号機



め ふじゆう ひと あんない ひと いっしょ い  
いつも、目の不自由な人を案内してくれる人が一緒に居てくれた

よ ひとり ある おな ばしょ おんせいあんないそうち  
ら良いですが、一人で歩くとき、いつもと同じ場所に音声案内装置が

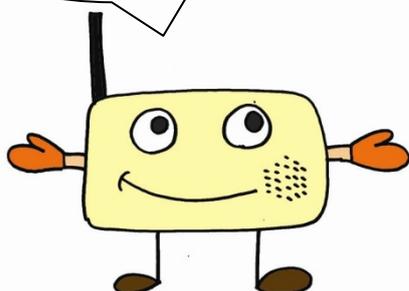
どうろ ま かど みせ えき いりぐち じぶん かくにん  
あれば、道路の曲がり角や、お店や駅の入口などが自分で確認でき

いどう おんせいあんないそうち がいしゅつさき と  
て、移動しやすくなります。音声案内装置が外出先にたくさん取り

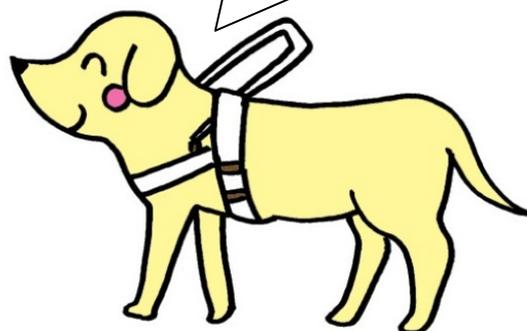
つ みち まよ ふ あん すく ひとり あんしん  
付けてあれば、道に迷う不安も少なくなって、一人でも安心して

がいしゅつ  
外出できます。

たてもの いりぐち  
どこが建物の入口  
なのか、わかるん  
だね。



おんせいあんない たす  
音声案内で助かるこ  
とがいろいろあるね



おんせいあんないそうち  
音声案内装置

